

【重要事項説明書・手術同意書】

開腹下消化管生検：実施理由と重篤なリスクについて

本資料は、これから予定している「開腹下での消化管生検（バイオプシー）」について、その必要性、内視鏡検査との違い、および命に関わる重大なリスクを正しく理解していただくためのものです。非常に重要な内容ですので、最後まで必ずお読みください。

1. なぜ、この手術（開腹）が必要なのか

～内視鏡検査（カメラ）ではダメな理由～

「お腹を切らずに、口やお尻からカメラを入れる内視鏡検査の方が負担が少ないのでないか？」そう思われるるのは当然のことです。確かに内視鏡は侵襲（身体へのダメージ）が少ない検査ですが、今回のケースでは以下の理由から**「開腹手術でなければ診断できない」**と判断いたしました。

- 採取できる深さの違い（最も重要な理由）
 - 内視鏡：腸の**「内側の表面（粘膜）」**しか採れません。病気が腸の壁の奥（筋肉の層など）に潜んでいる場合、表面だけを検査しても「異常なし」や「ただの炎症」という誤った結果が出てしまい、病気を見逃すリスクがあります。
 - 開腹手術：腸の壁を**「全層（外側から内側まですべて）」**切り取って検査できます。これにより、隠れている腫瘍や特殊な腸炎を確実に診断できます。
- 届かない場所
 - 小腸の一部（空腸など）は、内視鏡が物理的に届かない場所にあります。今回の病変部位は内視鏡での到達が困難、または不可能な場所に位置しています。

2. 手術を行わない場合のリスク（自然経過）

もし、リスクを恐れて手術を行わず、確定診断がつかないまま現在の「手探りの治療」を続けた場合、病状は悪化の一途をたどり、以下の**「緩やか、かつ確実な死」**に向かうシナリオが想定されます。

- 進行性の飢餓・衰弱死（餓死に近い状態）腸の機能が壊れているため、いくら食べても栄養が吸収されず、自分の筋肉を分解して骨と皮だけになります。最後は呼吸をする筋力さえも失って亡くなります。
- 低タンパク血症による呼吸困難（溺れるような苦しみ）血管からの水漏れにより、胸やお腹に水が溜まります（胸水・腹水）。肺が圧迫されることで、陸上にいながら水に溺れているような呼吸困難に陥り、苦しみながら亡くなります。
- 消化管穿孔（破裂）病気が進行して腸に穴が開き、その時点で手遅れ（麻酔に耐えられない状態）となります。

3. 手術のリスク（命に関わる合併症）

上記のような事態を避けるために本手術を行いますが、消化管の手術は**「便や細菌の通り道にメ

スを入れる」ため、感染リスクが格段に高く、以下の経過をたどる「最悪のケース(術後死亡)」**があり得ることをご理解ください。

最大のリスク：縫合不全(ふごうふせん)から敗血症による死亡

腸を切り取った後、糸で縫合しますが、その傷口がうまく塞がらずには開いてしまうことです。これが起きると、以下の**「死へのドミノ倒し」**が始まります。

▼ 縫合不全から死に至るまでの経過

1. 縫合不全の発生(術後3日～5日目に多い) 現在の栄養状態の悪さや、癌・炎症の影響で組織がボロボロになっている場合、縫った糸が組織を引き裂いて穴が開いてしまいます。↓
2. 汚染物質の漏出 開いた穴から、腸の中の**消化液(強力な酸やアルカリ)や便(大量の細菌)**が、お腹の中(腹腔内)へ漏れ出し続けます。↓
3. 劇症型腹膜炎(げきしようがたふくまくえん) お腹全体が細菌と消化液で焼けただれたような状態になります。激痛、高熱、嘔吐などが現れます。↓
4. 敗血症(はいけつしょう) お腹で増殖した細菌や毒素が血管に入り込み、全身を巡ります。身体が暴走状態(サイトカインストーム)になり、自分の正常な細胞まで攻撃し始めます。↓
5. 敗血症性ショック・多臓器不全 血圧が急激に下がり、心臓・肺・腎臓などの機能が次々と停止します。この段階になると、緊急再手術を行っても回復は極めて困難で、数時間～数日以内に死に至ります。

その他のリスク

- **DIC(播種性血管内凝固症候群)**: 血液の凝固異常により、全身から制御不能な出血が起こり死に至ります。
- 麻酔・心肺機能の急変: 術中・術後に突然の心停止や呼吸不全を起こす可能性があります。

4. 結論(リスクとベネフィットの天秤)

この手術には上記のような「命を落とすリスク」があります。しかし、内視鏡検査では診断がつかない可能性が高く、また手術を行わずに様子を見ること(無治療)も、確実に命を縮める選択となります。

私たちは、リスクを十分に認識し対策を講じた上で、「原因を突き止め、完治あるいは症状改善の可能性」に懸ける価値があると判断し、この手術を推奨いたします。

同意署名欄

私は、本資料に記載された「開腹下消化管生検」について説明を受けました。

- 内視鏡検査では診断が難しい理由
- 手術をしない場合の衰弱死のリスク
- 手術をした場合の縫合不全・敗血症による死亡リスク

これらを十分に理解した上で、獣医師に最善の処置を委ね、手術を依頼することに同意します。

日付: 年 月 日

飼い主様 署名 :

緊急連絡先 :
